

## 第62回日本泌尿器科学会群馬地方会演題抄録

日 時：平成 24 年 11 月 3 日 (土) 15 時 00 ~  
場 所：群馬大学医学部内 ミレニウムホール  
会 長：小林 幹男 (伊勢崎市民病院)  
事務局：柴田 康博 (群馬大院・医・泌尿器科学)

### 〈セッション I〉

座長：周東 孝浩 (群馬大院・医・泌尿器科学)

#### 臨床症例

##### 1. 鉄筋による陰嚢杓創の 1 例

大山 裕亮, 牧野 武朗, 悦永 徹  
斉藤 佳隆, 竹澤 豊, 小林 幹男  
(伊勢崎市民病院 泌尿器科)

症例は 51 歳男性. 屋外で作業中に転倒し鉄筋で陰嚢を受傷し救急外来受診. 受診時, 左陰嚢に 1 cm の裂創を認めたが, エコーで明らかな精巣損傷認めず, 同日帰宅. 受傷後 5 日目に下腹部中央の発赤, 痛みを訴え当科外来受診. CT にて下腹部の皮下膿瘍が疑われ緊急で切開排膿ドレナージを行った. 下腹部中央から右鼠径にかけて膿の貯留を認め, 可及的にデブリドマン行い解放創として毎日洗浄を行った. 術中に皮下から衣服の生地と思われる異物を認めたため, 左陰嚢から右鼠径を経由して腹壁へと鉄筋が刺さったことによる杓創と考えられた. 陰嚢の杓創はまれであり, 考察とともに報告する.

##### 2. 膀胱結石を契機に発見された前立腺カルンクル

宮尾 武士, 岡本 亘平, 鈴木 光一  
久保田 裕, 松尾 康滋 (前橋赤十字病院)  
加藤 雄一 (加藤クリニック)

症例は 71 歳男性, 近医にて EMR (内視鏡的粘膜切除術) を施行した際に血尿あり, CT で膀胱結石を認め当科紹介受診となった. 膀胱鏡で前立腺部尿道に乳頭状腫瘍を認めた. PSA 3.884ng/ml であった. 後日, 経尿道的前立腺部尿道腫瘍切除術及び膀胱結石摘出術を行った. 病理所見では, 腺上皮の乳頭状増生を認め, 免疫組織学的にも PSA 陽性であり, 前立腺カルンクルの診断であった.

カルンクルは女性の外尿道口に好発しやすいことは知られているが前立腺カルンクルは過去にも報告例が少ない. 若干の文献検索を加え, これを報告する.

##### 3. 基礎疾患の無い若年女性における感染性腎嚢胞, 腎周囲膿瘍の一例

富田 健介, 福岡 裕二, 大竹 伸明  
関原 哲夫 (日高病院 泌尿器科)

症例は基礎疾患, 既往症の無い 23 歳女性. 急性腎盂腎炎で前医内科に入院, 抗生剤投与で軽快後, 高熱と右側腹部痛の出現, 腎嚢胞の変形を認め, 当院転院となった. CT 所見から感染性腎嚢胞, 腎周囲膿瘍と診断, 経皮的ドレナージを施行, ドレーン造影で嚢胞から腎周囲の交通を確認した. 第 19 病日にドレーン造影を行ったところ, 嚢胞から腎周囲, 腎盂尿管への造影剤流出を認めたため, 第 24 病日に DJ スtent を留置した. 炎症反応の低下, 腎周囲 free space の縮小を確認し, 第 39 病日にドレーン抜去, 第 42 病日に退院となった. 若干の文献的考察を加え, これを報告する.

##### 4. 移植腎の尿管結石に対して尿管切石と膀胱尿管再吻合を施行した 1 例

中山 紘史, 田中 俊之, 小林大志朗  
塩野 昭彦, 町田 昌巳, 牧野 武雄  
柴山勝太郎 (富岡総合病院 泌尿器科)  
羽鳥 基明 (群馬大院・医・泌尿器科学)  
関原 哲夫 (日高病院 泌尿器科)

症例は 52 歳女性. 1989 年に慢性腎不全で腹膜透析導入したが 1991 年に腹膜炎を合併し血液透析へ移行した. 2007 年に献腎移植を施行し経過良好であった. 2012 年 1 月 3 日肉眼的血尿出現, 翌日の血液検査で Cr が 0.96mg/dl から 2.6mg/dl と急上昇を認め, CT・エコーで移植腎に水腎症と尿管結石を認めた. 結石による腎後性腎不全と診断し, DJ スtent 留置で腎機能は改善した. 他院に依頼し ESWL 施行したが破砕不可, f-TUL は尿管の屈曲が強く到達不可能であった. その後腎盂腎炎の反復とともに結石の多発を認め, 尿管切石と尿管下端を切除して膀胱尿管再吻合術を施行した. 術後の CT で尿管の屈曲の改善を確認し DJ スtent を抜去した.